気になった点をいくつか

●読者プレゼント、えっこんなモノしか…。久しぶりに残念なもの（私にとって）ばかりでした。ノベルティグッズとか、どんどん出しちゃって下さいよ。5分で分かる新着ニューカーで、メルセデスのAクラスをもっともっと全面に出して欲しかった。私的には次に出るCLAクラスに大変興味があります。現マイカーも8年目、そろそろ乗り換えをと考えています。そしてそして、表紙ですが、「シブい」と言ってしまえばそれまでですが、ちょっと暗いし目立ち度はイマイチ。もっとエフロードらしく分かりやすくて明るくて目立ったモノにして下さい。といったところです。4月号も楽しみにしています。（東京都／テヘペロ君）

■Aクラス、実は来月号で10ページほどで小特集です。お楽しみに！

ランボ創立50周年企画

●ミウラからイオタ、そして王者カウンタック、最高に良かったです。ランボルギーニを代表する名車中の名車の知られざる生い立ちなど、大変貴重な写真と記事、データ、とても勉強になりラッキーでした。改めて名車なんだと感じた次第です。また、スーパーカー超王が行く東京オートサロン、そしてデトロイトショーの記事、写真も記事も分かりやすくとても楽しめました。これからも世界中の色々な名車を取り上げていって下さい。（名古屋市／洲崎忠典）

■特にイオタから続くカウンタックの話は面白かったでしょう。入稿しながら読んでいてハマってました。

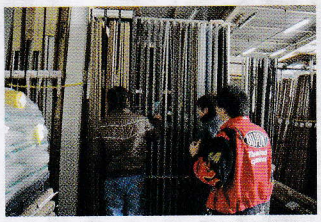
普通では聞けない話を

F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT 4th SEASON

ビンビープロジェクト・サードシーズン！ Vol.30

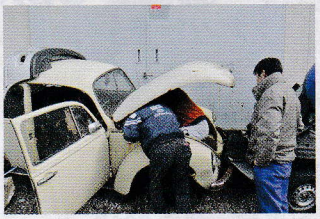
文●半谷範一　撮影●森口信之
取材協力●ベストインポートサービス(BIS)
tel:048-282-6119
http://www.vw-bis.co.jp

毎度のことですが、このビンビープロジェクトの取材はゆる〜く始まります。集合時間も毎回○○時頃というアバウトさ。山崎社長や衛くんが仕切ってくれなかったら、そのまま終わってしまいます。



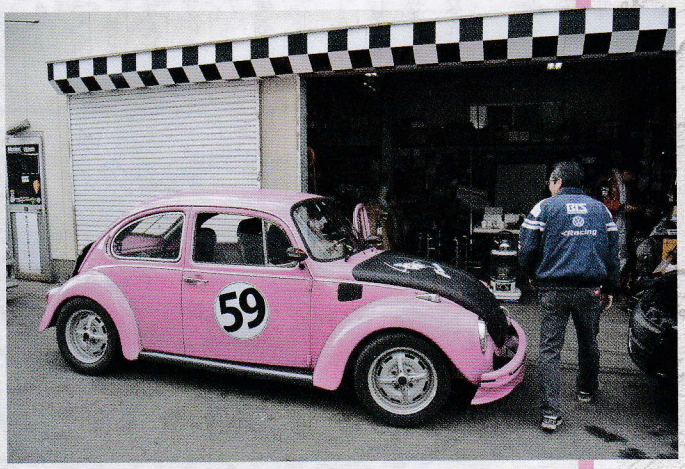
まずは近所のホームセンターへ材料の買い出しに行きました。もちろん本物？　のアルミ板も売ってますけど、今回も軽くて、安くて、加工がし易いアルミ複合板を選択。今回はアルミ地の物を選びましたが、色々なタイプが販売されてました。

最初はポロのインパネで使っていたオートメーター製のスピードメーターを使う予定でいましたが、メーター自体の精度や燃料計が組み込まれていることなどを考慮して、ドナーカーから純正のビートル用メーターを外して使うことにしました。



今回のドナーカーはこの1302。以前にエンジンをもらったのと同じクルマです。1302というモデルは、トーションバーのビートルと同じ平面ガラスや平らなインパネですが、フロントサスは1303と同じストラットになっています。

スピードメーターはフロントフード側から取り外します。ワイパーモーターが邪魔になってちょっと苦戦しました。空冷ビートルのスピードメーターは機械式で、車速はミッションとかからではなく、左の前脚からケーブルで取っています。



安くて比較的簡単で何よりカッコ良く！そしたら自然と方向性は見えてきます…

レーシーなインパネということで、古Q編集長が最初に思い付いたのは、前号で紹介した段ボールで作ったようなもの……つまりフラットなパネルの上にずらっとメーターを並べたようなデザインでした。

素材に関しては、やはり最初のイメージ通りにアルミ調にすることにしました。もちろんカーボンのインパネは凄く魅力的ですけど、技術的な難易度はもちろん、コスト的にもこのプロジェクトには厳しいのでパスです。しかも今回は普通のアルミ板ではなくて、樹脂製の心材を薄いアルミ板でサンドイッチした〝アルミ複合板〟を使用することにしました。

以前にビンビーのドア内張り等に使用して、軽くて加工しやすいことは承知してましたし、何より値段が安いというのが魅力。近所のホームセンターで簡単に手に入るというのも嬉しいなあ。もし失敗しても、簡単にやり直しがききますからね。

実は今回のパネルの製作、朝の10時過ぎから始めて、夕方にはほぼこの状態まで完成してました。ポロのインパネの移植に1年近くかけたあの苦労は、一体何だったのかなあ？

●今回の巻頭特集、「J＝カウンタック」のように、旧車の中の名車を取り上げ、普通では聞けない逸話のような記事をもっともっと取り入れてもらいたい。

（山形県／サーキットの狼）

■同感。でもネタが…。色々探ってますのでお待ち下さい。

福野さん、お帰りなさい

●記憶とか思い出とかは、いいことしか残らない。まさしく今回の記事でした。半谷さんの930って、本当に元通りになるの？　それとも廃車？　次回が大変気になります。森&島下対談が復活、待ってました！お二人の掛け合いが面白い。なかなか書けないことを上手く書いてあるのがいい。ピンビー、インパネですか。これってメーカーがやると億とかいう単位のお金が掛かるとか掛からないとか。まさかダッシュボード全体ではないですよねえ。オフロ～ド、待ってたよん！

（愛知県／Nちゃん）

■色々とお待たせしました。今月号からも復活というか、新連載も始まってます。次号からも…お楽しみに！

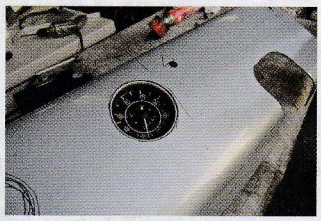
色々復活ありがとう！

●福野さん（今月だけ？）はじめ、森さん×島下さんの対談、お楽しみオフロードなど復活ありがとうございます。やっぱりFロードは読んで見て楽しくなくちゃ面白くないです。これで女神様が戻ってくれれば…。

（津市／山神）

■福野さん、レギュラーで復活ですよ。オフロードは不定期連載だけど、女神様は次号あたりから…かな。

スピードメーターはもちろん、ライトスイッチ、ハザードスイッチもオリジナルを使用しているので、ハーネスをつなぐもの比較的簡単でした。位置の問題で長さが足りないハーネスがあったものの、オリジナルと同色で延長しておきました。



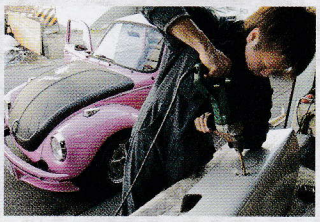
このタイプのメーターはパネルの後側から組み込みます。というわけで仮付けしてみたら、こんな感じできれいに収まりました。ほぼツライチですね。レーシーというよりは、どこかのショーカーやコンセプトカーのインパネみたいな雰囲気？

さっそく仮付けしてみたら、ピッタリ合う…はずはありません（笑）。多少は調節&修整が必要です。でも今回はほんの少しの修整で組み込むことができました。この段階でもっと手間がかかると思っていたので、ちょっと拍子抜けかな。

平板のインパネには1303用に使われていたシーソー型のライト・スイッチでは取り付けが面倒なので、ドナーカーのプッシュ／プル・タイプを移植することにしました。この1302はハザードも付いている年式なので、それも流用します。

これはスイッチをオンにしてみたところ。これでスピードが分からないスピードメーターや全く当てにならない燃料計ともオサラバですね。試乗してみたところ、すべてちゃんと作動することが確認できました。やはり純正は素晴らしいなあ。

実はこのパネルを曲げるときにちょっときつく曲げ過ぎてクラックが入ってしまった部分があるので、それを隠すために以前使ったカーボンシートの残りを貼ってみることにしました。でも結果は大成功。中々良い感じに仕上がりました。

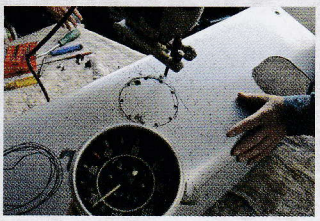


最初は運転席の正面にメーターを並べて付けるつもりでいたのですが、スペース的にちょっと苦しいことが判明しました。そこで、オリジナルのスピードメーターを、ちょうどミニみたいな感じのセンターメーターで装着することにしました。

次はいよいよアルミ複合板の加工。どんな形状に切れば良いのか？　まず最初に段ボールで型紙を作ることにしました。今回はなるべくシンプル＝作りやすい形状にしたかったので、なるべく曲げが必要な箇所が少なくなるように考えました。

助手席側から見るとこんな感じ。先月号では段ボールに沢山のメーターを書いたけれど、実際にはこれだけあれば実用上は不自由しません（笑）。草レースに使うには油温計や油圧計があると良いけど、それは次のステップの作業にしましょう。

ノーマルのビートルのスピードメーターは、左右2箇所にフックのような部分があり、インパネの裏側に出ているボルトに引っ掛けてナットで固定します。このパネルにはそれがないので、メーターの左右に穴を開けて固定することにしました。



残念ながらアルミ板にこのメーターと同じサイズの穴を開けられるホルソーはありませんでした。そこで、今回はちょっと原始的？　な作戦で行くことにしました。まず、インパネにメーターの大きさの円を書いて、それに沿って穴をあけます。

型紙に合わせてマーキングしてから、ジグソーを使って慎重に切ります……と言いたいところですが、古Q編集長は相変わらず緊張感なしのアバウトな作業（笑）。でもご覧のようにRの部分でもそれなりにちゃんとカットすることができました。

タコメーターはポロのインパネでも使っていたオートメーター製を流用することにしました。パネルの正面では低くて見難いのでダッシュの上に取り付けることも考えましたが、恐らくこんな感じでロールケージに固定することになりそうです。

こんな感じで左右にボルトを取り付けるのですが、たまたまBISがオリジナルで製作した封印できる化粧座金があったので、今回はそれを使用することにします。ノッペリしたインパネなので、良いアクセントになるかも知れません。

その後、穴からジグソーの刃を差し込んで、丸く切り取るわけです。もちろんこの方法ではきれいに切り取ることはできないので、最初は少し小さめの穴にしておいて、仕上げの段階で修正します。技術が必要な部分は衛くんの仕事（笑）。

切り終わったら、次は曲げる作業に入ります。アルミ複合板は柔らかい素材なので、このようにテーブルの端を使って押せば比較的簡単に曲げることができます。ただし、あまり鋭角に曲げるとアルミ板の表面にクラックが入るので要注意です。